

令和 5 年 度

岸和田市貝塚市清掃施設組合
決 算 審 査 意 見 書

岸和田市貝塚市清掃施設組合監査委員

目 次

第1	審査の対象	-----	1
第2	審査の期間	-----	1
第3	審査の方法	-----	1
第4	審査の結果	-----	1
第5	総括意見	-----	1
1.	決算の概要	-----	1
2.	総括意見	-----	2
第6	審査の概況	-----	3
1.	一般会計	-----	3
(1)	決算状況	-----	3
(2)	歳入	-----	4
(3)	歳出	-----	8
2.	財産	-----	12
(1)	公有財産	-----	12
(2)	重要物品	-----	13

注記

- 1 千円単位で表示した金額は百円単位を四捨五入した。そのため差額又は合計金額が一致しない場合がある。
- 2 比率(%)は、小数点第2位を四捨五入した。そのため小計又は合計が内訳と一致しない場合がある。
- 3 各表中の符号の用法は次のとおりである。
 - 「0.0」----- 該当数値はあるが単位未満のもの
 - 「-」----- 該当数値がないもの
 - 「△」----- マイナスのもの

令和5年度 岸和田市貝塚市清掃施設組合一般会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

令和5年度 岸和田市貝塚市清掃施設組合一般会計歳入歳出決算

第2 審査の期間

令和6年7月24日から令和6年9月26日まで

第3 審査の方法

審査に当たっては、一般会計歳入歳出決算書、実質収支に関する調書、歳入歳出決算事項別明細書及び財産に関する調書が関係法令に準拠して作成されているか、また、これらの書類の計数は関係諸帳簿、証書類と一致しているかを照査したほか、必要に応じ関係職員の説明を聴取して審査した。

第4 審査の結果

審査に付された一般会計歳入歳出決算書及び関係書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、関係諸帳簿と符合し、その計数は正確であり、予算の執行についてもおおむね適正に運用されているものと認められた。

なお、一般会計の概要及び意見については、以下に述べるとおりである。

第5 総括意見

1. 決算の概要

令和5年度の一般会計決算額は歳入3,977,562千円(対前年度比2.6%増)、歳出3,942,470千円(同4.2%増)で歳入歳出差引額の形式収支及び実質収支は35,092千円となっている。

歳入の増減をみると前年度に比べ分担金で166,444千円(12.2%)、国庫支出金で13,883千円(4.9%)、繰越金で19,707千円(26.9%)、諸収入で105,923千円(19.4%)増加し、使用料及び手数料で7,145千円(1.9%)、組合債で196,600千円(16.0%)減少している。

歳出においては、総務費で28,378千円(0.8%)、公債費で131,723千円(82.7%)増加し、議会費で70千円(2.8%)減少となっており、性質別にみると、義務的経費で136,277千円(39.5%)、その他経費で204,496千円(11.1%)増加し、投資的経費で180,743千円(11.3%)減少している。この結果、歳出に占める割合は、義務的経費12.2%、投資的経費35.9%、その他経費51.9%となっている。

決算規模については前年度に比べ増加となっているが、これは主に維持補修費、起債の償還額が増加したことによるものである。

2. 総括意見

歳入については使用料及び手数料でごみの搬入量が減少したことにより廃棄物処分手数料は前年度比 7,173 千円(1.9%)減少している。また、クリーンセンター大規模改修事業の事業費の減少に伴い、起債の借入額も減少となっている。諸収入では、金属類等売払収入が前年度比 41,726 千円(28.6%)減少となるも、電力売払収入が単価の上昇により前年度比 145,445 千円(40.7%)、ペットボトル売払収入が搬出量の増加により前年度比 2,227 千円(5.4%)とそれぞれ増加となっている。

手数料や売払収入などの自主財源は、社会経済情勢によって大きく左右されるところであるが、今後も情報収集・分析や創意工夫により、安定した財源の確保に努めることが重要である。

一方、歳出について節別にみると、需用費が前年度比 43,676 千円(12.3%)、原材料費が前年度比 69,135 千円(37.9%)、償還金利子及び割引料が前年度比 131,723 千円(82.7%)増加し、工事請負費が前年度比 129,951 千円(6.5%)減少している。

起債の償還については、岸和田市貝塚市クリーンセンター建設に係る起債の償還が令和3年度をもって終了し、一時的に減少したが、当年度より基幹的設備改良事業に係る起債分が増加している。施設の長寿命化を図るため令和元年度から取り組んできた基幹的設備改良事業や継続費であるクリーンセンター大規模改修事業は令和5年度で終了となったが、これらに係る起債の償還が令和6年度以降増加していく。また、施設の経年劣化に対する改修や維持補修の経費は今後も増加していくと考えられる。

組合においては、クリーンセンターの安定した運営を堅持しつつ、「最少の経費で最大の効果」の実現に向け、歳出抑制への積極的な取り組みや、起債の活用による歳出の平準化、国庫補助金関連の情報収集に努めるとともに自主財源の確保に引き続き努められたい。

また、一般廃棄物行政全般に係る課題については、必要に応じ岸和田市・貝塚市と連携を図り、一般廃棄物中間処理事業の安心・安全かつ円滑な遂行に十分配慮され、快適な市民生活のための環境保持に寄与されるよう切に望むものである。

第6 審査の概況

1. 一般会計

(1) 決算状況

(単位：円)

歳入歳出予算現額	4,275,768,000
歳入決算額	3,977,561,931
歳出決算額	3,942,469,806
歳入歳出差引残額	35,092,125

当年度の決算状況は、予算現額 4,275,768 千円に対し、歳入 3,977,562 千円(対前年度比 2.6%増)、歳出 3,942,470 千円(同 4.2%増)で、歳入歳出差引額の形式収支及び実質収支は 35,092 千円で、単年度収支は 2,869 千円となっている。

過去5年間における決算状況は、次表のとおりである。

(単位：円)

区分 年度	決 算 額		形式収支	翌年度へ繰り越 すべき財源(D)	実質収支 (C) - (D)	単年度収支 (当該年度実質収支 - 前年度実質収支)
	歳入 (A)	歳出 (B)	(A) - (B) = (C)			
5	3,977,561,931	3,942,469,806	35,092,125	0	35,092,125	2,869,037
4	3,875,350,445	3,782,439,357	92,911,088	60,688,000	32,223,088	△316,287
3	3,625,723,405	3,552,519,030	73,204,375	40,665,000	32,539,375	△2,643,865
2	4,294,241,222	4,227,057,982	67,183,240	32,000,000	35,183,240	2,776,732
元	4,112,192,607	4,079,786,099	32,406,508	0	32,406,508	△7,641,986

(2) 歳入

(単位：円)

	5年度	4年度
予算現額	4,275,768,000	4,172,649,000
調定額	3,977,561,931	3,875,350,445
収入済額	3,977,561,931	3,875,350,445
不納欠損額	0	0
収入未済額	0	0

当年度の歳入は、予算現額 4,275,768 千円に対し、調定額、収入済額ともに 3,977,562 千円となり、前年度に比べ 102,211 千円(2.6%)増加している。

増加したものは、分担金で 166,444 千円(12.2%)、国庫支出金で 13,883 千円(4.9%)、繰越金で 19,707 千円(26.9%)、諸収入で 105,923 千円(19.4%)である。

減少したものは、使用料及び手数料で 7,145 千円(1.9%)、組合債で 196,600 千円(16.0%)である。

財源別では、自主財源は 2,642,332 千円(構成比 66.4%)で、前年度に比べ 284,928 千円(12.1%)増加し、依存財源は 1,335,230 千円(構成比 33.6%)で、こちらは前年度に比べ 182,717 千円(12.0%)減少している。

款別歳入決算状況については、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区分 款別	5年度			収入率		構成 比率	4年度	構成 比率
	予算現額	調定額	収入済額	対予算現額	対調定額		収入済額	
分担金	2,197,895,000	1,525,495,000	1,525,495,000	69.4	100.0	38.4	1,359,051,000	35.1
使用料及び 手数料	335,664,000	372,575,630	372,575,630	111.0	100.0	9.4	379,720,850	9.8
国庫 支出金	300,389,000	299,730,000	299,730,000	99.8	100.0	7.5	285,847,000	7.4
繰越金	60,689,000	92,911,088	92,911,088	153.1	100.0	2.3	73,204,375	1.9
諸収入	283,231,000	651,350,213	651,350,213	230.0	100.0	16.4	545,427,220	14.1
組合債	1,097,900,000	1,035,500,000	1,035,500,000	94.3	100.0	26.0	1,232,100,000	31.8
計	4,275,768,000	3,977,561,931	3,977,561,931	93.0	100.0	100.0	3,875,350,445	100.0

各款別について決算内容は、以下のとおりである。

第1款 分担金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	不納 欠損額	収入 未済額	対予算 増減額	収入率
5	2,197,895,000	1,525,495,000	1,525,495,000	0	0	△672,400,000	100.0
4	1,896,051,000	1,359,051,000	1,359,051,000	0	0	△537,000,000	100.0
増減	301,844,000	166,444,000	166,444,000	0	0	△135,400,000	

予算現額 2,197,895 千円に対し、調定額、収入済額ともに 1,525,495 千円となり、前年度に比べ 166,444 千円(12.2%)増加している。

収入済額の内訳は、岸和田市分担金 998,284 千円、貝塚市分担金 527,211 千円である。

分担金の決算額は、歳出から他の歳入を差し引いた額により決定するものであり、主に歳入では、金属類等売払収入などの自主財源や国庫補助金の確保に努め、歳出では、維持補修費においての入札差金の発生、クリーンセンター運転管理委託料をはじめ運営経費の精査などにより費用減少したことによって、予算現額に対し 672,400 千円の減少となっている。

第2款 使用料及び手数料

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	不納 欠損額	収入 未済額	対予算 増減額	収入率
5	335,664,000	372,575,630	372,575,630	0	0	36,911,630	100.0
4	349,067,000	379,720,850	379,720,850	0	0	30,653,850	100.0
増減	△13,403,000	△7,145,220	△7,145,220	0	0	6,257,780	

予算現額 335,664 千円に対し、調定額、収入済額ともに 372,576 千円となり、前年度に比べ 7,145 千円(1.9%)減少している。

これは、ごみの搬入量が令和4年度に比べ減少したことによるものである。

収入済額の内訳は、使用料 1,800 千円、手数料 370,775 千円である。

第3款 国庫支出金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	不納 欠損額	収入 未済額	対予算 増減額	収入率
5	300,389,000	299,730,000	299,730,000	0	0	△659,000	100.0
4	285,847,000	285,847,000	285,847,000	0	0	0	100.0
増減	14,542,000	13,883,000	13,883,000	0	0	△659,000	

予算現額 300,389 千円に対し、収入済額が 299,730 千円となり、前年度に比べ 13,883 千円 (4.9%) 増加している。これは、基幹的設備改良事業に対する国庫支出金である。

第4款 繰越金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	不納 欠損額	収入 未済額	対予算 増減額	収入率
5	60,689,000	92,911,088	92,911,088	0	0	32,222,088	100.0
4	40,666,000	73,204,375	73,204,375	0	0	32,538,375	100.0
増減	20,023,000	19,706,713	19,706,713	0	0	△316,287	

予算現額 60,689 千円に対し、調定額、収入済額ともに 92,911 千円となり、前年度に比べ 19,707 千円 (26.9%) 増加している。

これは、主にクリーンセンター大規模改修事業の継続費通次繰越金 1,888 千円と I T V 装置更新工事の継続費通次繰越金 58,800 千円が繰り越されたことによるものである。

第5款 諸収入

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	不納 欠損額	収入 未済額	対予算 増減額	収入率
5	283,231,000	651,350,213	651,350,213	0	0	368,119,213	100.0
4	264,718,000	545,427,220	545,427,220	0	0	280,709,220	100.0
増減	18,513,000	105,922,993	105,922,993	0	0	87,409,993	

予算現額 283,231 千円に対し、調定額、収入済額ともに 651,350 千円となり、前年度に比べ 105,923 千円(19.4%)増加している。

これは、主に前年度に比べ金属類等売払収入は減少した一方、電力売払収入は単価の上昇により、ペットボトル売払収入は搬出量の増加により、それぞれ収入済額が増加したことによるものである。

収入済額の内訳としては、金属類等売払収入 103,996 千円、電力売払収入 503,178 千円、ペットボトル売払収入 43,153 千円、その他雑収入 1,024 千円である。

第6款 組合債

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	不納 欠損額	収入 未済額	対予算 増減額	収入率
5	1,097,900,000	1,035,500,000	1,035,500,000	0	0	△62,400,000	100.0
4	1,336,300,000	1,232,100,000	1,232,100,000	0	0	△104,200,000	100.0
増減	△238,400,000	△196,600,000	△196,600,000	0	0	41,800,000	

予算現額 1,097,900 千円に対し、調定額、収入済額ともに、1,035,500 千円となり、前年度に比べ 196,600 千円(16.0%)減少している。

これは、主にクリーンセンター大規模改修事業の起債額が減少したことによるものである。

収入済額の内訳としては、大阪湾圏域広域処理場整備委託事業債 9,500 千円、ごみ処理施設増設事業債 236,400 千円、ごみ処理施設基幹的設備改良事業債 640,500 千円、クリーンセンター大規模改修事業債 149,100 千円である。

(3) 歳 出

(単位：円)

	5年度	4年度
予 算 現 額	4,275,768,000	4,172,649,000
支 出 済 額	3,942,469,806	3,782,439,357
翌年度繰越額	0	122,688,000
不 用 額	333,298,194	267,521,643

当年度の歳出は、予算現額 4,275,768 千円に対し、支出済額は 3,942,470 千円（執行率 92.2%）となり、前年度に比べ 160,030 千円（4.2%）増加している。

不用額 333,298 千円の内訳は、主に総務費における 327,195 千円である。

支出済額を款別にみると、議会費 2,450 千円（構成比 0.1%）、総務費 3,648,977 千円（同 92.6%）、公債費 291,043 千円（同 7.4%）である。前年度に比べ総務費 28,378 千円（0.8%）、公債費 131,723 千円（82.7%）の増加に対し、議会費で 70 千円（2.8%）の減少となっている。

節別に前年度と比較してみると、主に需用費 43,676 千円（12.3%）、委託料 42,866 千円（5.0%）、原材料費 69,135 千円（37.9%）、償還金利子及び割引料 131,723 千円（82.7%）の増加に対し、工事請負費 129,951 千円（6.5%）の減少となっている。

款別歳出決算状況については、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区分 款別	5 年 度				4 年 度	支出済額 増 減	支出済額 構成比率	
	予 算 現 額	支 出 済 額	執行率	翌年度 繰越額	支出済額		5 年度	4 年度
議会費	3,511,000	2,449,876	69.8	0	2,520,204	△70,328	0.1	0.1
総務費	3,976,172,000	3,648,976,682	91.8	0	3,620,598,674	28,378,008	92.6	95.7
公債費	293,085,000	291,043,248	99.3	0	159,320,479	131,722,769	7.4	4.2
予備費	3,000,000	0	—	0	0	0	—	—
計	4,275,768,000	3,942,469,806	92.2	0	3,782,439,357	160,030,449	100.0	100.0

性質別歳出決算状況については、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区 分		5 年 度		4 年 度		増減額	増減率
		決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比		
義務的経費	人 件 費	189,177,626	4.8	184,413,265	4.9	4,764,361	2.6
	扶 助 費	1,050,000	0.0	1,260,000	0.0	△210,000	△16.7
	公 債 費	291,043,248	7.4	159,320,479	4.2	131,722,769	82.7
	計	481,270,874	12.2	344,993,744	9.1	136,277,130	39.5
投資的経費	普通建設事業費	1,414,878,140	35.9	1,595,621,068	42.2	△180,742,928	△11.3
	災害復旧事業費	—	—	—	—	—	—
	計	1,414,878,140	35.9	1,595,621,068	42.2	△180,742,928	△11.3
その他経費	物 件 費	1,295,158,417	32.9	1,216,363,450	32.2	78,794,967	6.5
	維持補修費	746,063,975	18.9	620,304,604	16.4	125,759,371	20.3
	補 助 費 等	5,098,400	0.1	5,156,491	0.1	△58,091	△1.1
	計	2,046,320,792	51.9	1,841,824,545	48.7	204,496,247	11.1
歳出合計		3,942,469,806	100.0	3,782,439,357	100.0	160,030,449	4.2

義務的経費は、481,271千円で、前年度に比べ136,277千円(39.5%)増加している。

これは、主に公債費で131,723千円(82.7%)増加したことによるものである。

投資的経費は、1,414,878千円で、前年度に比べ180,743千円(11.3%)減少している。

これは、主にクリーンセンター大規模改修事業費が減少したことによるものである。

その他経費は、2,046,321千円で、前年度に比べ204,496千円(11.1%)増加している。

これは、主に物件費が78,795千円(6.5%)、維持補修費が125,759千円(20.3%)増加したことによるものである。

各款別について決算内容は、以下のとおりである。

第1款 議会費

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
5	3,511,000	2,449,876	0	1,061,124	69.8
4	3,643,000	2,520,204	0	1,122,796	69.2
増 減	△132,000	△70,328	0	△61,672	

予算現額 3,511 千円に対し、支出済額は 2,450 千円(執行率 69.8%)となり、前年度に比べ 70 千円(2.8%)減少している。

第2款 総務費

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
5	3,976,172,000	3,648,976,682	0	327,195,318	91.8
4	3,998,620,000	3,620,598,674	122,688,000	255,333,326	90.5
増 減	△22,448,000	28,378,008	△122,688,000	71,861,992	

予算現額 3,976,172 千円に対し、支出済額は 3,648,977 千円(執行率 91.8%)となり、前年度に比べ 28,378 千円(0.8%)増加している。

これは、主にクリーンセンター大規模改修事業費が減少したものの、基幹的設備改良事業費が増加したこと及び維持補修費が増加したことによるものである。

支出済額の主なものは、需用費 398,529 千円(構成比 10.9%)、委託料 899,571 千円(同 24.7%)、工事請負費 1,881,250 千円(同 51.6%)、原材料費 251,505 千円(同 6.9%)である。

第3款 公債費

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
5	293,085,000	291,043,248	0	2,041,752	99.3
4	167,386,000	159,320,479	0	8,065,521	95.2
増 減	125,699,000	131,722,769	0	△6,023,769	

予算現額 293,085 千円に対し、支出済額は 291,043 千円(執行率 99.3%)となり、前年度に比べ 131,723 千円(82.7%)増加している。

これは、主に基幹的設備改良事業費に係る起債の償還が始まったことによるものである。

支出済額の内訳は、元金 281,296 千円(構成比 96.7%)、利子 9,747 千円(同 3.3%)である。

組合債の前年度末未償還額は 4,156,474 千円で、当年度は 1,035,500 千円を借入れ、281,296 千円を償還した結果、当年度末未償還額は 4,910,678 千円となっている。

第4款 予備費

当初予算額 3,000 千円であるが、充用額はない。

2. 財 産

(1) 公有財産

ア 土 地

(単位：㎡)

区分 年度	行政財産	普通財産	計
5	142,337.09	0	142,337.09
4	142,337.09	0	142,337.09
増 減	0	0	0

前年度末と同様で増減はない。

イ 建 物

(単位：㎡)

区分 年度	行政財産	普通財産	計
5	53,863.98	0	53,863.98
4	53,863.98	0	53,863.98
増 減	0	0	0

前年度末と同様で増減はない。

(2) 重要物品

決算年度末の現在高は、次表のとおりである。

(単位：台)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
机・卓子類	6	△5	1
いす類	3	0	3
箱類	1	0	1
事務用機械器具類	12	△8	4
計器類	35	△32	3
機械類	1,631	△1,626	5
工具類	22	△10	12
車両類	12	0	12
標本模型類	10	△1	9
雑具類	14	△8	6
計	1,746	△1,690	56

取得価格 50 万円以上の重要物品の当年度末現在高は 56 台である。

決算年度中の重要物品が大幅に減少したのは、重要物品の対象となる物品から固定資産台帳に記載している設備類等を除外したためである。